

新潟県

公民館月報

昭和61年1月号

発行所 新潟県公民館連合会

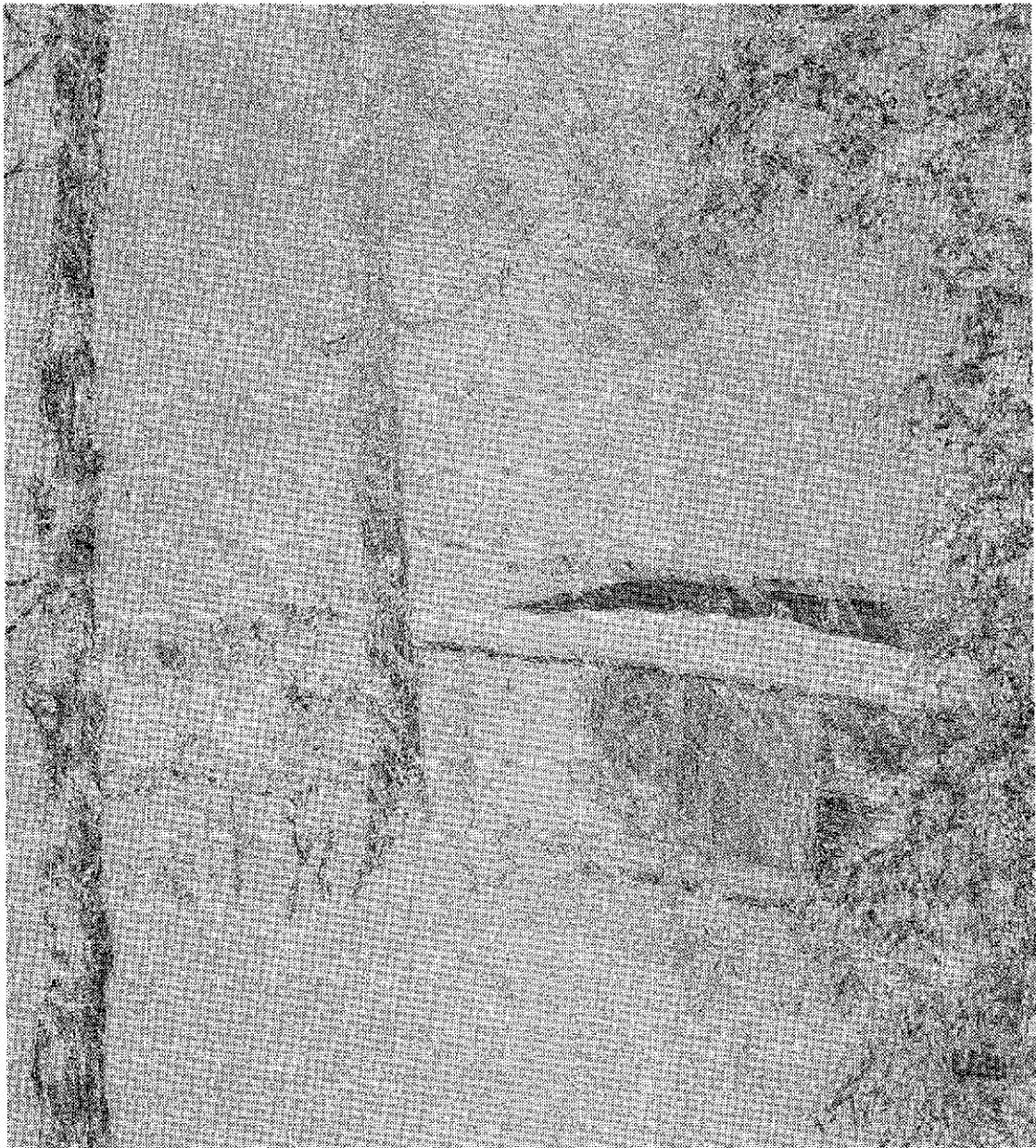
【新潟市川端町2-9・森林会館内】

【電話・新潟(0252)24-6073】〔振替新潟0-4049〕

発行人 会長 佐藤 眞武

編集人 事務局長 本田 清

【定価1部120円 年共1,440円】



五合庵

霊峰弥彦山塊の南界に國上山がある。山中の名さつ國上寺は和銅年間のそう建といわれ、千二百年の法燈を今も伝えてい。享保の昔、中興万元上人の献身で、現存の無量寺閣(本堂)が再建され、さらに、寺内のいくつもの堂塔が整えられた。今日もなお参詣の人人からその遺徳が慕われている。

この山内に万元上人が隠せいされた五合庵があった。後八十年ばかりして、その高風を慕った良寛上人が、そこに住まわれていっそう旧跡を名高くされた。今の庵は大正の初めに作られたもので、元とわずかに異なつたともいわれているが、老杉陰暗く茂つた幽境に建つ五合庵の風景は、昔のたたずまいを偲ばせて、訪れる人人の心を充たしてくれている。

ここに描かれた雪の五合庵からは、良寛上人の冬ごもりの歌が浮んでくる。

山かけの草の庵は
いとさむし
柴をたきつつ
夜を明かしてむ

絵・分水町文化財保護審議
委員 内田 昭一

文・分水町文化財保護審議
委員長 松沢 佐五重

第34回公民館振興大会

61億予算獲得へ結集

公民館振興国会議員



(子どもたちから学ぶ 山口良治氏の講演)

が激励

第34回全国公民館振興大会が十一月二十八日、東京の赤坂プリンスホテルで開かれた。

全国から市町村長、教育長、館長など八百余名が参加、本県からは受賞者三名、市町村長、助役、教育長、社会教育課長、公民館館長など四十四名が参加し、別稿のような宣言、決議を採択して幕を幕じた。

開会のことばは、例年のとおり全公連副会長、公振連連長の石井耕一氏(豊栄市長)が述べ、主催

者あいきつは横山正八公連会長、昭和六十年、本県からは後良職口に

とがないうつぱり少年だ。その母に死なれたときは自暴

白痴になっていた。その私を救

大会スローガンは「生涯教育の中核センター公民館の充実を」

このあと「子どもたちから学ぶ」

は、子どもが悪いなどは決していわなかった。その思いが、いま

「公民館の振興を」61年度公民館補助費が十一億一千百万円の実現を」とするもので、渡部恒三、

原田憲、藤井勝志、山東昭子、柳

「は球をうしろへ投げては師へ進

川野氏など公民館振興国会議員

「私は走るのがきらいでラグビー

とすもので大きな感謝を与えた。

表彰式は、全公連職員四十二名、永年勤続職員百四十七名に対

とは関係がなかった。母にも反抗

致で採択された。

議会の面々が挨拶を兼ね激励の

めいと言ひたすということもある。

終わりに公振連副会長尾花晋民

あいさつを述べた。

とすもので大きな感謝を与えた。

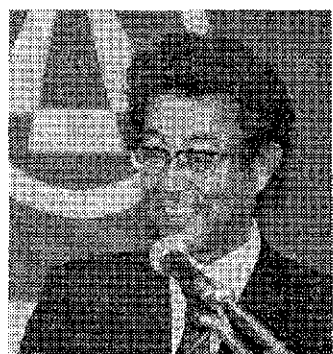
な宣言・決議を読み上げ、満場一致で採択された。



(山東昭子議員(参))



(藤井勝志議員)



(渡部恒三議員)



(原田 憲議員)

※ ※ ※ ※ ※



国の財政事情のしわ寄せが刻々と地方自治体へ。自治体にあつては速効性の目立たない社会教育予算へその影響が出現している。



そういう中で「これからの公民館はどうかあるべきか。」については有識者、関係職員諸氏がいろいろな提言を述べた。二、市民の公民館事業に対する

これからの公民館
楯澤 英 男

私はず年の公民館勤務を遂げて感得した問題を列挙して御指導をいただきたい。

一、職員体制と勤務
公民館の性格上、土・日・夜間の勤務が多い。従って、超過勤務が余儀ないわけだが、それ

私はず年の公民館勤務を遂げて感得した問題を列挙して御指導をいただきたい。

近年、比較的若学歴者が多くな、公民館事業に対する市民の関心度が低下しているのではな



ぎっしりと参加者

宣 言

公民館が、生涯教育を推進する中核的社会教育機関であることは周知の事実である。

今日、市町村の健全な発展のための、コミュニティづくりは、公民館に課せられた重要課題である。また青少年非行問題や、高齢化社会の到来によって、ますます公民館に寄せられる期待は増大しつつある。

このような事態に直向し、われわれ公民館関係者は決意を一層新たにして、活発な社会教育活動を展開しようとするものであるが、現実に公民館をめぐる諸情勢は必ずしも整えられていない。

ここに第34回全国公民館振興大会を開催し、公民館がより一層活発な活動を実践するために必要な措置が、一刻も速やかに講ぜられるよう大会参加者の総意を以て関係方面へ強く要望するものである。

右宣言する。

決 議

- われわれは 第34回全国公民館振興大会の宣言に基づき、次の事がらが迅速かつ確実に実現するよう熱望し、ここに決議する。
- 1 昭和61年度公民館施設整備費補助金「61億1,100万円」の確保。
 - 2 都道府県・市町村が実施する生涯教育事業費補助金の確保。
 - 3 公民館長、主事の専門職制を確立し、かつ常勤専任体制の完全実施。
 - 4 地方交付税における、公民館費の算定基準を抜本的に改善し、測定単位費用の大幅増額。
- 右決議する。

昭和60年11月28日

第34回全国公民館振興大会

表紙の絵(色紙)募る

公民館の絵画教室での傑作・利用グループのなかで絵をよめる人の作品など、なるべく多量に(タテ長)で書かれたもの。絵の内容は各地域の「名勝・山跡・文化財」などのほか、季節感を表現する風物などを期待します。

これら応募してくださる方は、秋、冬、春などの季節に合致した絵柄を御まします。

絵の説明文は四角子程度のものでも結構です。採用のものには図書券など謝辞をお贈りします。

(本紙編集部)

かけがえのない人生を 何よりも大切に

ことし開講十五年を迎えた毎週「こころの講座」恒例の体験発表会が、さる十一月二十一日に行われ、この日の発表内容と発表者が次で紹介してみたい。

この体験発表会は、受講生たちがおたがいの生活体験を発表し合って、自分の人生の生き方を考えようという事で、昭和五十七年度から始められた。

昭和五十七年度以来の各年度のメインテーマは次のようなもので、各コースから一名ずつ七名の受講生代表がそれぞれ発表をしてきた。

法 57年度 わたしへの健康
58年度 わたしへの体験
59年度 わたしへの生きがい
60年度 わたしへの挑戦

○ この寿人学講座では、各コースの学習の成果を発表する作品展覧会も独自で開催しているが、会場にあふれる展示作品のひたひたを眺めながら、また体験発表会でいきいきと発表する受講生たち、そしてその発表に真剣に耳を傾けて聞く受講生たち、自分がかがいのない人生を何よりも大切に生きようとする人びとの、尊と愛を見ることができた。

(柏崎市中央公民館 参事兼事務長 篠間助大)

公民館番頭日記

63

すばらしい豊かな人生経験を待つ受講生たちの、時にユニークな発表は年々充実してきており、発表を聞く仲間への真剣に耳を傾けて聞く受講生たち、自分がかがいのない人生を何よりも大切に生きようとする人びとの、尊と愛を見ることができた。

(本紙編集部)

(町村部会) 第26回関東甲信越静公民館研究集会から

さまざまな角度から幅広く計画中である。皆の力で太鼓を作り、皆でたいていく中に地域の連帯感が生まれる。

3 地域づくりと公民館活動

地域づくりの為の公民館の果たす役割は大きい。しかし、中央の大公民館のみが重要視されがちであり、末端の集落公民館はとかく軽視されがちである。だが地域づくりの為にこそ末端公民館は大切なのである。山北町には中央公民館と37の集落公民館があるが、かつてはその中間に位置する立場として5つの地区公民館があった。当時はさまざまな学習活動が地区公民館に依存されがちで、集落公民館の自主的活動が思うようにいかない状況であった。このままでは地域づくりの拠点となる集落公民館の発展がありえないということで、地区公民館は廃止され、現在は従来地区公民館で行ってきた活動を、37集落公民館の各館長による連合会組織で行っており大きな効果をあげている。

<討議内容>

先の発表内容により、熱心な質問、活発な意見が出された。その中で、参加者共通の問題として発言されたのは、いかにして青壮年者層を公民館活動に積極的に参加させようかということであった。又、各年齢層の学習グループの連携、時には合同で学習活動に取り組むことも必要であろうという意見も出され、更に産業振興につながる地域づくりの為の公民館活動のあり方などの問題提起もなされた。その他、地域づくりに果たす役割の大きいものとして見逃すことのできないものとして、スポーツ活動があり、各層に応じた内容をもって各種学習活動の中に組みこんでいくことも重要であるという意見では全員の一致を見た。

中央と末端における公民館の関係については、中央の事業を末端に下ろすことも地域の自主性・実行性の育成から必要なことであるという意見があり、特に地域における新生活運動の浸透、青少年の健全育成、家庭教育の充実の上で必要との意見の一致を見た。公民館長の任務・任期・任命についての問題では、自治会長兼公民館長という場合、地域の実情もあろうが、どうしても自治会としての性格が強くなり、本来の公民館の性格が弱くなるという意見があり、又、任期の問題についても真剣に協議がなされた。特に任期については一年という地域が多く、そのことがネックとなって館長の独白

性、アイデアが消極的になってしまうということ、情勢を傾けて活動ができないということで、理想的な任期年数の確立に向けて今後は取り組んでいかねばならないということで、参加者の意志の一致を見た。公民館が地域づくりを行う上で、活動内容を年間計画に盛りこんでいく時、どうしても住民の求めるものを考慮していかなければならない。適格にこれをつかむ上で公民館利用者層のアンケート調査、各年齢層による要望を把握し、その結果を十分に検討協議し、解決策、取り組み策を見出すことも大切、それが結果的には多くの公民館利用者を生み出すことにつながるという意見も出された。そのことがすなわち人づくり、ひいては地域づくりの為に好結果をもたらすということである。又、各種団体の育成の中で、公的機関の援助のみによるのではなく、団体の主体的、自発的な行為による活動の実践が人づくりの為に果たす役割の大きいことを指摘する意見があり、団体によっては公民館などが主体となって活動させるのではなく、公民館を利用して自主的に活動を計画させる。一本立ちできるものはそのようにさせるという姿勢もこれからの人づくりの為に大切な条件であるという意見もだされた。

人づくりは、リーダーづくりという考え方も成り立つが、一方メンバーづくりということも考えねばならない。信頼する、誇りを感じる、隣人愛に満ちた人々が集合した。いわゆる、メンバーを育てることが地域の願いであり、それが公民館の任務でもあるという意見には一同共感を覚えたようである。

産業振興の為に学習を公民館活動の一環として盛りこむことはどうかとの意見もあったが、産業活性化の為に振興は必要なのであり、その為の人づくりが必要、それができれば地域活性化につながるものであり、公民館はその為の人づくりを行わなければならないということで、活動の一環としてみることは有意義なことという結論を得た。又、自主的に集落全体が公民館は自分達の施設であるという愛着心、意識を育てる為に必要最小限の規則を設けることも必要であり、事業のみでなく、運営資金も集めることが必要ではという意見があり、そのことがやがて地域づくりの為に役立っていくのではないかという意見もあった。

地域づくりと公民館

関公連大会で本県の担当した分科会は「地域づくりと公民館」であった。以下その内容のあらましについて紹介する。

司会者(新潟県)板垣七造
発表者(新潟県)本間茂
助言者(新潟県)藤家巖

<討議内容の柱>

- ◆公民館は、地域づくり・人づくりの為にいかにあるべきか
- ◆地域づくりの役割を担う少年・成壮年層の学習の重要性を考える
- ◆公民館長の任期・任命の問題点を考える

<発表内容>

山北町は新潟県の北端部にある。日本海に面して海岸線が走り、山間部には3つの河川が流れ、集落は主に山手に散在している。人口は10,100人で、昭和30年の町村合併当時から比べると、約5,000人近くの人口減少が見られる。これは従来、農林漁業を基幹産業として栄えてきた当町が、今日ではそれらの産業が全般的に低迷しているため、特に青壮年層を中心とする労働者層が外部に出ていく傾向にあることが、大きな要因となっている。

1 社会教育の現状

町としては現在、工場誘致に真剣に取り組んでいるが、なかなか思うようにはいかない。弱電関係が内職程度に入ってきていることから、主として婦人労働者が増大、その為、就業経営体が大きく変わってきている。公民館としては、町民憲章を社会教育の理念日標とし、町民個々の旺盛な学習意欲によってこれを実践していくことを目的として、特に地域づくりを進める為には、人づくりからという考えに基づいて学習活動を展開している。青壮年男子の学習が少ないという実情に鑑み、昭和60年度より壮年男子を対象とした「壮年講座」を開設した。又、青年層の町外流出に歯止めをかけることと、町内に残る青年が地域づくりに参加することを目的として、彼らの行う事業活動に公民館が積極的に協力するという立場から、「青年講座」を年3回にわけて実施している。内容的には次の通りである。

- (1) 山北町の現状について考える(産業振興の姿勢と展望について……講話・パネルディスカッション)
- (2) 各分野パネルマンによるディスカッション及び、明日の山北町を考えることをテーマとして各年齢層(小・中・高生・一般)からの作文募集。(優秀作文内容の一部)
小学校低学年……山北の自然と環境を大切に、観光産業面の積極的な育成を図りたい。
小学校高学年……自分の希望する職場がない。しかし、自然を大切に、山北で一生をすごしたい。
- (3) 5つの分科会による話し合い
ア 町の現状把握の為に調査をすること。(産業振興の為の調査、適格な把握)
イ 産業振興の為に官民一体となったプロジェクトチームを発足させ、研究させる。(人材養成と開発……産業にかかわる人はプロ意識が必要。自己形成、後継者の育成を図ること)
ウ 環境づくり。(若者が定着する為の地域の環境づくり。地元産業の振興と企業誘致に努力)

2 青年による地域連帯活動

(1) 青年の「館」の建設

青年達が自分達の活動拠点としての青年会館を作った。その為の資金づくりということで公演会、演奏会、ミュージカル等を開いた。その頃新しい公民館が完成するというので、古い公民館が廃館となったのでこれを改造し完成させたものである。材料は町から提供されたが、その他一切は青年達が日曜祭日、勤務あけ等を利用して立派につくりあげた。このことは、ただ集まって学習するというだけでなく、皆が力をあわせ一丸となって何かを完成させる。すなわち、地域の連帯感を向上させることに大いに役立った。

(2) 日本国太鼓の制作と発表

日本国という山にちなんで「日本国太鼓」を作った。これを地域おこしの活動の為に利用する。制作費の一部は各戸より協力してもらった。合併30周年、町制20周年の記念行事や山北町全体の敬老会にも発表するなど、さ

実践記録シリーズ

(5)

公民館活動実践記録シリーズを復活しました。活動の苦心談・成功例などご送稿ください。

公民館

子どもも共和国の誕生

多採な事業こなし文集づくりも



県央寮慰問訪問 劇「おもちゃの裁判」の練習風景 (台本読み)

望ましい施設子ども会を

目指して

風南公民館は、昭和60年1月1日より公民館の仲間入りをした歴史の浅い公民館である。以前は「市民センター」という名称で、風南地区の主要施設として運営されてきたが、地域住民の学習意欲の向上に伴い、生涯教育の場、いわば公民館的活動が強く望まれ始め、ついに「風南公民館」と名称が変わり、公民館として運営されるようになった。そんな中で、いろいろな施設内にある図書室・ナールームに集まる子供達を対象に、年間随時、施設子供会と称し、手作り玩具、映画会等の行事を行ってきたが、参加する子供達が低学年化した事や、行事一つ一つに関連性がなくなってきた事などの原因から、①リーダー的存在が生れない、②好ましい異年齢集団での人間関係が生れない、③行事の内容がレベル的に向上しない等の諸問題が目立ち始めてきた。そこで今回、この子ども会に

「風南子ども共和国」という名称を付け、夏休を勧誘し、内容も高度化し、また、活動も年間の活動をとこととやらえ、参加者は会員制という形式を取り、活動には常に参加するよう促しながら、活動を展開していくよう考えた。

▼活動内容

会員定員を知りし募集したところ、一日で定員に達し、最終的には56名の会員で締め切った。第一回は、「楽しい国を作ろう」というテーマで、村(班)編成・大統領(会長)・副大統領・村長な

らに、年間随時、施設子供会と称し、手作り玩具、映画会等の行事を行ってきたが、参加する子供達が低学年化した事や、行事一つ一つに関連性がなくなってきた事などの原因から、①リーダー的存在が生れない、②好ましい異年齢集団での人間関係が生れない、③行事の内容がレベル的に向上しない等の諸問題が目立ち始めてきた。そこで今回、この子ども会に

「風南子ども共和国」という名称を付け、夏休を勧誘し、内容も高度化し、また、活動も年間の活動をとこととやらえ、参加者は会員制という形式を取り、活動には常に参加するよう促しながら、活動を展開していくよう考えた。

「心身修業」に参加者45名、8月23日(金)午前9時30分、風南公民館を出発。参加者全員、徒歩で約5kmのところにある道心坂(河原)へ行き、そこで昼食・休憩。午後、また徒歩で約4kmのところにある「西明寺」へ向かう。

西明寺到着後、住職より説教を頂戴。その後、座禅を組む。暗くなってきた頃、きまだめし大会へと日程を進め、午後8時30分全日程を終了。

「心身修業」に参加者45名、8月23日(金)午前9時30分、風南公民館を出発。参加者全員、徒歩で約5kmのところにある道心坂(河原)へ行き、そこで昼食・休憩。午後、また徒歩で約4kmのところにある「西明寺」へ向かう。

この風南子ども共和国の大統領・副大統領・村長の計名で慰問訪問

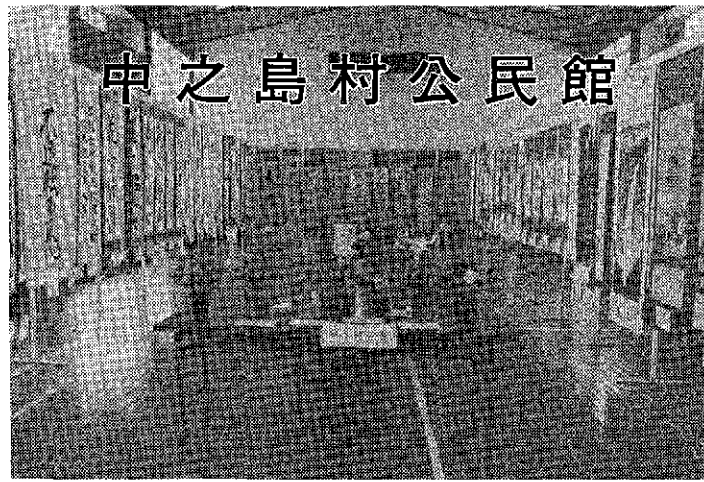
お年寄りの方々には大変、好評だった様で、「また来てね」と何度も声に、少々参加者も興奮気味で、帰る時には、「来年もよう。」と何人もの参加者が声を出していた。今後このような持ちが参加者の中に根ざした点を大切に、発展して行くよう努力・工夫をしていきたい。



心身修業 道心坂での昼食風景

三 条 市 風 南 公 民 館 主 事 渡 辺 博

※ ※ ※



中之島村公民館

(村民作品展・書道)

中之島村では、例年恒の収穫期が終って、十月に入ると、公民館の事業も急ぐ忙しさを増します。十月十日、体育の日を中心として、村民総合体育祭、各分館の敬老会、(八つ)の条例分館を有する中央公民館で行う各種学級、講座。十一月三日文化の日に行う村内一周帆船競走も、中之島村が、誇る大きな事業の一つであり、本年も、三十一チームの参加で、三十三回目の大会を終りました。今回は公民館月報を通じて、四、五、商工会の村の特産物の展示会業の効率化と村民サービスの向上の面からも、出来るだけ各種関係事業を同時開催して、ボリュームのある事業展開を行う事を目的に、関係事務局ならびにそれぞれの主体団体とも会議を重ね、賛同を得ています。

開催日は十一月の第二日曜を中心にして「本年度は十一月七日(十二日)まで」を設定いたしました。十一月十日の日曜日をメインの日として、不用品チャリティーセールの準備、販売は商工会の指導で商工会婦人と消費者協会の協賛で担当、村民作品展の展示は文化懇話会の方で担当。出品作品の受付、出品目録等事務的作業は職員がやりました。

屋外の菊花展も屋外小屋の粗立て、菊の搬入、展示、審査と大変な作業となりますが、菊化連盟の役員の方々から役割分担をお願いして取り組みました。

出之島村では、例年恒の収穫期が終って、十月に入ると、公民館の事業も急ぐ忙しさを増します。十月十日、体育の日を中心として、村民総合体育祭、各分館の敬老会、(八つ)の条例分館を有する中央公民館で行う各種学級、講座。十一月三日文化の日に行う村内一周帆船競走も、中之島村が、誇る大きな事業の一つであり、本年も、三十一チームの参加で、三十三回目の大会を終りました。今回は公民館月報を通じて、四、五、商工会の村の特産物の展示会業の効率化と村民サービスの向上の面からも、出来るだけ各種関係事業を同時開催して、ボリュームのある事業展開を行う事を目的に、関係事務局ならびにそれぞれの主体団体とも会議を重ね、賛同を得ています。

四回目を迎えた村民祭

十月十一月に事業を集中

昭和五十二年から村消費者協会の協賛で、二月中旬の村民作品展と開催してきました。

昭和五十七年度から、公民館事業の見直しをするなかで、各種事業の効率化と村民サービスの向上の面からも、出来るだけ各種関係事業を同時開催して、ボリュームのある事業展開を行う事を目的に、関係事務局ならびにそれぞれの主体団体とも会議を重ね、賛同を得ています。

開催日は十一月の第二日曜を中心にして「本年度は十一月七日(十二日)まで」を設定いたしました。十一月十日の日曜日をメインの日として、不用品チャリティーセールの準備、販売は商工会の指導で商工会婦人と消費者協会の協賛で担当、村民作品展の展示は文化懇話会の方で担当。出品作品の受付、出品目録等事務的作業は職員がやりました。

その責任のなかに準備を行い、全村各戸にチラシの配布も終つていよいよ四回目を迎える村民祭です。あとは期間中天候に恵まれて本年も一人でも多くの村民から会場に足を運んでいただける事を期待いたします。

昭和六十一年十一月六日
中之島村村民祭実行委員会

村民祭の内容

日時	内容	主体団体	会場
11.7日~12日	菊花展 出品点数 450点	村菊花連盟	公民館特設会場
11.8日~12日	村民作品展、書道、日本画	村文化懇話会	公民館講堂
"	洋画、彫刻、工芸、写真、色紙	"	"
"	拓本、その他	"	"
11.10日	生花展	生花教室	公民館講座室
11.10日	ジュース・だんご、その他	商工会青年部	公民館ホール
"	刃物研奉仕	"	"
11.10日	農産物展示即売会	村農政サークル	公民館第1会議室
11.10日	不用品 チャリティーセール	村消費者協会 商工会婦人部	公民館2階大広間
11.10日	錦鯉品評会	錦鯉愛好会	公民館特設会場

昨年度 チャリティーセール売上代金164,075円 (村福祉協議会に寄附)

資料歓迎

公民館で作成した資料や文芸作品などは、資料などを恵んでくださいませんか、県内の皆さんへも紹介してまいりたいと思っております。

投稿歓迎

感想文でも結構、折にふれて気軽にペンを書かせてください。採用文には粗品を差し上げます。

— 編集部 —

プロフィール

川西町公民館社会教育主事

中村 享氏(29才)

彼(中村)と云ふ衣服を着せ横顔を見ると、明治の元勳、皇の肖像を彷彿させるものがある。

立憲甲冑の事実上の指導者、剛廉、清廉を看板に「お通」の結名の明治の皇の資質は彼の祖父の兄、初代川西町長中村壯吉から受け継いでいるものと考える。

「私は何も才能はないのですが健康が取り得て、いつでも、どこでも、何んでもお役に立ちたいとかけずり廻って公民館活動に明け暮れることが自分の適職と考えています。一と到って謙虚な姿勢が魅力であり何ともいえない。

青少年教育では国際青年の中魚支部委員として十名名の青年を前面に立て、八月には楽しい大集いのフェスティバルを成功させた。婦人家庭教育では退退を続ける活動に

活力を家庭教育に校長の指導をうけ、学級の実態をピンポイントで取り返す材料として生かしている。視聴覚教育では十六ミリ映写技術の後継者育成とフィルムの各種講座導入を図り、郡内使用度ダントツを維持している。六キロの道のりを厭わずに十口町のライブラリーでのフィルム貸借業務は学校用まで取りもつサービも振りだした。漸く昨年から業務委託に切り替えて彼の過労をチャリティー献金してきている。公民館図書では月一人一回を目安に、不慣れなへき地には月二回の移動図書館を考へ、吹雪を冒しての車での送り届けをしている。住民課所管の青少年育成町民会議の事務が性格上から社会教育課に移管となるや、快く受け、日本列島グリーン大作戦や夏休みのパトロール、環境浄化の調査や改善に町内を廻って専門職職責を対処している。



こんな彼に最近フィアンセが現われ、よりよい生活の充実が図られようとしており大変喜ばしい。

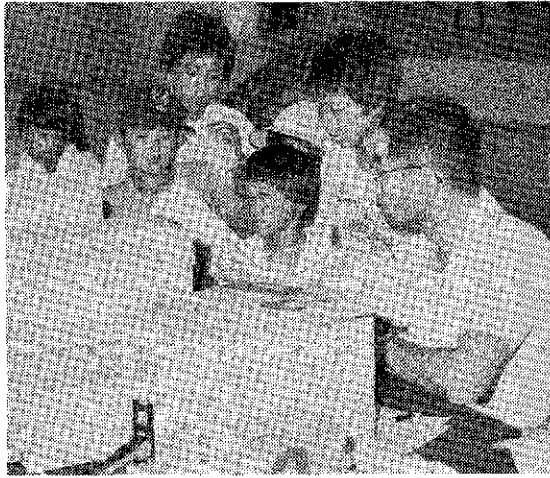
川西町公民館長 石澤邦治

三和村公民館

「チビッ子まつり」

自動車解体やラジコンコーナーも

今年三日、当村子ども会連絡協議会より公民館の方へ「子ども達を一堂集めて何か大会をした」との相談があり、関係者の方と相談の結果、村内の単位子ども会の指導者代表を中心として実行委員会組織して大会を行なうという名称「さわやかチビッ子まつり」ことになりました。そこで、公民館サイドでその実行委員を選定し集まって下さった方10名(うち、協議役員3名事務職員1名)で、5月中旬に第一回の会合をもち、今までの流れについて話し合いました。内容についてはそれを大会の目的・内容についてそれぞれユニークなアイデアを出し合って大会に向けて力が発揮されるように決意をなしました。



人気の占いコンピューターコーナー

吉

村の子どもたちが一つば充実したものにと考え、の場所集まり、ふだんできない遊びや小人数でできる遊びにチャレンジャー・ラジコン飛行機・どじょうつかみ・カエルetc.

日時

8月25日(日)PM1:00~4:30
参加者全員対象のもので年令に応じたコーナーを二コーナー設ける。

・一級紹介
自動車解体コーナー・コンピューター占いのラジコンカー・ラジコン飛行機・どじょうつかみ・カエルetc.
また、このまつりをより盛り上げるために、村の「青年育成村民会議」の後、要依頼と快諾、広報・公民館車でのPR、そして子ども達へのパンフレット配布を行ない、準備を進めてゆきました。

・占いのコーナー
「占いのコーナー」は、事前に準備して、当日の朝より快活に開催し、実行委員会を中心に会場づくりを行な流し、正午すぎに開会式を持つばかりの体勢になりました。十二時三十分すぎより各地域より会旗を先頭に子ども

血涙を流してインパクトし、その結果の用紙を見てもうござんたり、ショックを受けていました。(特に、高学年の女の子達に人気がありました。)
・カエルコーナー
各グループでいろんなカエルをつかまえてきて、その中からミスカエル・ジャンボカエルコンテストを行ったり、レースをしました。バグツに入れてきたり、袋に入れてきたり、中にはグロッキーカエルもいました。時間の関係上、次々とコーナーを回っていき子ども達と父兄。とにかくどのコーナーも人気があり実行委員も汗だくになって動いて下さいました。

あとがき

ことしは青年。一虎は千里を往きて千里を帰る。公民館はいま向里くらのところを行こうとしているのでしようか。国の公民館補助予算の推移からみると、どうやら折り返し点を通過してしまつたような印象を受けます。

公民館叢書

朱膳寺春三著 「公民館の原点」

四六判三〇八ページ 頒価一、二〇〇円(送料一部二五〇円)

田代元弥著 「公民館から見た日本の教育」

四六判一三八ページ 頒価一、〇〇〇円(送料一部二五〇円)

「公民館の原点」の著者、朱膳寺春三氏は元会連理事。宮城県本吉町公民館館長をのぞいて同県会連会長を歴任、同時に定年退職後上京して、鎌倉市中央公民館館長に迎えられるなど、草創以来生きた公民館人として活躍された人。

また「公民館から見た日本の教育」の著者田代元弥氏は、大東文化大学教授「公民館のあるべき姿と今日の指標」専門委員、さらには生涯教育時代に即応した公民館のあり方「会連会連中の専門委員長を歴任、「月刊公民館」編集委員長としても活躍されている。本県公民館大会における基調講演者。

右の二冊、本会事務局であつせん。